

〇〇小学校 特別支援教育 基本方針

1 特別支援教育の理念

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。また、特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものである。さらに、特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている。

2 特別支援教育の推進

(1) 基本的な考え方

通常の学級に、「学習の一部に極端に困難がある」「落ち着きがない」「なかなか学習に集中できず、時に席を立ってしまうことがある」「友達とのかかわり方が苦手で、一人であることを好む」「ルールの理解ができにくく、友達とトラブルを起こすことが多い」などの困り感を持っている児童がいます。通常の学級に在籍するこれらの児童の中に、学習の習得に関するつまずきがあったり、ものごとの背景についての認知に偏りがあったりする児童がいます。LD、ADHD、高機能自閉症等の軽度発達障害がある児童です。このような児童も、その特性を踏まえた支援や指導をすることで、抱えている問題についての改善が進み、学校での学習や集団生活に適応できるようになります。

(2) 校内支援体制を確立する

※「教師一人による支援」から「学校全体、チームでの支援」へ

- ①校内支援委員会を定期的に開催し、チーム支援体制を整える。
- ②児童のつまずきを把握するため、チェックリストを活用する。
- ③障害についての理解を深めると共に、個の教育的ニーズを把握し、自立のための個別の指導・支援計画を作成する。
- ④学校生活の様々な場面で、交流活動を多く取り入れ、かかわり合う中で、社会性を培い、児童同士の相互理解を深める。
- ⑤保護者との連携を密にし、保護者の思いや願いを受け止めた指導・支援を行う。
- ⑥巡回相談や専門家チームを活用する。
- ⑦引継ぎシートを作成し、進学先等へ引き継ぐ。

3 校内支援委員会の役割

- (1) 校内の特別支援教育の進め方を企画する。
- (2) 児童生徒のつまずきの実態を把握し、その支援に関する全校教職員の共通理解を図る。
- (3) 専門家チームによる判断の必要性の有無について検討する。
- (4) 特別な教育的支援が必要な児童生徒の実態調査を行い、学級担任等の指導への支援方策を具体化する。

4 特別支援コーディネーターの役割

- (1) 組織で共通認識をもった手立てをとることができるように、校内の関係者との連携を図る。
- (2) 担任に対して、相談に応じたり、助言したりする等の支援をする。
- (3) 校内支援委員会を計画的に行い、円滑な運営がなされるように推進役となる。
- (4) 保育所、中学校等で継続した支援ができるよう引き継ぎの推進役となる。
- (5) 保護者に対する相談窓口となり、保護者を支援する。
- (6) 様々な専門家の助言を受け、支援の充実を目指し、外部機関との連携を図る。

5 個別の教育支援計画と指導計画の作成について

障害のある児童について、学習指導要領に次のように示されている。

家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。

特に、特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。（小学校学習指導要領 総則 P10）

	個別の教育支援計画	個別の指導計画
目的	障害のある児童一人一人の教育的ニーズを把握し、乳幼児期から学校卒業までを通じて一貫して的確な支援を行う。	学校生活において、障害のある児童一人一人の教育的ニーズに対応して極め細かな指導や支援を行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教育的ニーズ ・支援目標 ・支援内容及び方法 ・支援を行う人及び関係機関 ・支援の評価 ・引き継ぎ事項 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や保護者の願い ・長期目標及び短期目標 ・児童の実態 ・考えられる背景 ・指導や支援の内容及び方法 ・指導や支援の評価（変容） 等
作成	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の了承が必要 ・支援会議で協議の上、作成 (特別支援コーディネーター、学級担任、保護者、教育・医療・福祉など関係機関) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の了承がなくても可 ・校内支援委員会で協議の上、作成 (特別支援コーディネーター、学級担任、養護教諭等)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期目標は1年ごとに、短期目標は学期末ごとに更新することを基本とする。
その他	卒業時や転学の際には、保護者が原本を進学先・転学先に引き継ぐ。	

6 引き継ぎシートの作成について

引き継ぎシート作成の目的：発達障害等のある幼児児童生徒に行ってきた指導・支援内容を確実に引き継ぎ、入学後の円滑な学校生活につなげる。

進学や転学の際に、それまでに積み上げた指導や支援を確実に次の学校につなげる体制を構築する。

7 その他

【交流学习の実施について】

(1) 目的

- ①交流学习を通して、特別支援学級の児童の日頃の活動や得意とすること等に気づき、正しく理解するとともに、思いやりや優しさを育て、支え合っていく気持ちや態度を育てる。
- ②特別支援学級の児童にとって、生活経験を広げるよい機会とすると共に、社会性を育む。

(2) 進め方

- ①特別支援学級担任から、学級の児童について紹介する。

【紹介の内容】

- ・得意なことや苦手なこと
- ・みんなにお願いしたいこと（一緒に遊んだり、勉強したりするときの関わり方等）

- ②一緒に歌ったり、触れ合ったりして、仲よく活動する。
- ③活動を通しての振り返りを行い、今後の生活・学習活動に活かす。

(3) 配慮事項

- ①人権、プライバシーに関わることなので、特別支援学級の保護者に、交流学习の目的や進め方について丁寧に説明し、話す内容や活動について保護者の同意を得てから取り組みを進める。
- ②特別支援学級の児童についての説明の際、障害の種別や名称は必要ないので使用しない。
- ③特別支援学級の児童、及び交流する学年の発達段階に配慮し、取り組み内容や方法を決定する。

〇〇小グランドデザイン 20XX

Team 〇〇20XX

確かな教育実践による信頼される学校の創造

《本校の課題》

- ◇学力・学習習慣・学習態度
- ◇規範意識・自尊感情・優しさ・人権意識
- ◇体育・運動能力・基本的な生活習慣
- ◇子育て環境

《学校経営の重点》

- ◇協働的に実践する学校
- ◇組織的に展開する学校
- ◇創造的に躍動する学校

《めざす学校像》

- ◇明るい学校
- ◇美しい学校
- ◇温かい学校

《めざす児童像》

- ◇命を大切に 元気で明るい子
- ◇進んで活動し よく考え工夫する子
- ◇友だちを大切に なかよく助け合う子
- ◇夢や目標をもち ねばり強くがんばる子

《教育目標》 学びを楽しみ やさしく かしこく たくましく 共に高め合う児童の育成

《知》確かな学力

〇〇小学びのスタイルの確立と確かな実践
研究主題に迫る・授業力の向上・質の高い家庭学習

《到達目標》

- ①全国学力・学習状況調査：全国平均 A 問題+5・B 問題+3
- ②高知県学力定着状況調査：県平均比 1.10 以上
- ③標準学力調査：1.05 以上・単元評価テスト：85 点以上
- ④授業がよくわかる：95%以上
- ⑤家庭学習時間目標達成：低/30 分 95%・中/45 分 90%
高/60 分 85%
- ⑥校内研に関する肯定的評価 90%

かしこく

《徳》豊かな心

考え議論する道徳の授業展開
居場所づくりと学校風土・学校図書館の充実

《到達目標》

- ①学校が楽しい・学級が楽しい児童：95%以上
- ②周りの人から嫌なことをされた経験：25%以下
- ③「5あ」のきまりが守れる児童：87%以上
- ④読書目標達成率：85%以上
(低/80冊・中/60冊・高/40冊)

やさしく

《体》健康でたくましい体

生活習慣の確立・楽しく汗をかく体育の授業
体力づくりと仲間づくりのリンク

《到達目標》

- ①起床時刻：90%以上・就寝時刻：80%以上
- ②体力運動能力等調査：全国平均以上
- ③体育授業が楽しい：97%以上
- ④運動やスポーツが好き：92%以上
- ⑤20 分休みは外で遊んでいる：98%以上

たくましく

《研究主題》 自ら課題をつかみ、思考し、表現し合う授業づくり
～ 習得・活用・探究のつながり 指導過程・指導方法と発問を大切に～

《主な取組内容》

- ◇研究推進委員会・探究 PT の企画立案と進捗管理
- ◇4 部会（国・算・心・体）での方向性の確認
- ◇主体的・対話的で深い学びの学習スタイルの確立
- ◇UD の視点を生かした環境と授業づくり
- ◇学校図書館の活用
- ◇授業と連動した家庭学習の工夫

〇〇中との系統性重視

《主な取組内容》

- ◇考え、議論する道徳授業の実践
- ◇G とつみつけ・呼びさきストップ CP の実施
- ◇「5あ」のきまりの全校徹底
- ◇校内支援委員会の充実（巡回アドバイザー活用）
- ◇図書電子システムの効果的な活用
- ◇読書タイムの確保と家庭読書の習慣化

保幼小中連携による生活習慣の確立

《主な取組内容》

- ◇生活習慣の確立
- ◇5 分間プログラムの活用と体育科授業の改善
- ◇青空朝会による体力づくりと仲間づくり
- ◇外遊びの奨励（20 分休みの活用）

主体的・対話的で深い学び

生活・総合で教科をつなぐ

5 あのみまりの徹底

縦割り班活動の充実

基本的な生活習慣の確立

運動に親しむ習慣

《Team 〇〇》 学校教育目標と研究主題の具現化

校内研究・職員会・校外研修等・学校経営参画

《face to face》 子どもと向き合う

特別支援教育・UD の視点・ボトムアップ

《Collaboration》 連携・協働・地域の中の学校

保・幼・〇〇中との連携・わたり会の充実

授業づくりのスタンダード

〇〇市立〇〇小学校

授業で大切にしたいこと

子どもの思考の流れに沿った、学習過程の基本構成

	子ども	教師
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習の見通しを持つ</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; color: black; font-weight: bold;">やってみよう！</div>	① 問題提示（児童が自分でやってみたいと思う課題の設定、家庭学習からの気づき） ② めあての工夫
展開	<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">思考力</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">判断力</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">表現力</div> </div>	① 発問を工夫し、思考する場面を大切にする。 ② 児童が関わり合う場面設定をする。 ③ 表現する活動を入れる。（書く場面設定）
まとめ	<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習を振り返る</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">家庭学習へ</div> <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; color: black; font-weight: bold; margin-top: 10px;"> そうか、分かった！ こんなに使える！ </div> <div style="border: 2px solid pink; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; color: black; font-weight: bold; margin-top: 10px;"> 達成感・自信・ 自己有用感 </div>	① 本時のめあてに対するまとめを行う。 （価値の共有・自己評価を行う） ② 学んだことが一人ひとりの児童にどのようにとらえられているか見取ることができるようノートに書かせる。 ③ 次時の予告をする。 （家庭学習につなげる）

- 課題に対して、自力解決（個人思考）したり探究し合ったり（集団思考）する場面を設定する。
- キャリアノートの活用とともに、普段からのノート指導を大切にする。（児童の思考のあとが見えるノートづくり。）
- キャリア教育でつけたい力を常に意識する。
- 自分の考えをしっかりとまとめ、「書く力」を高めるよう、書く場面を設定する。
- 思考力・判断力・表現力の育成をめざし、「言語活動の充実」を図る。

教室環境のユニバーサルデザイン

1.物の置き場所を決める。

・・・複数の提出物など「教卓に出して!」という指示では、何をどこに置けばよいのか迷うものである。何をどこにおくのか、片付けるか、何を準備するかをわかりやすく表示しておくことで、安心して行動できる。



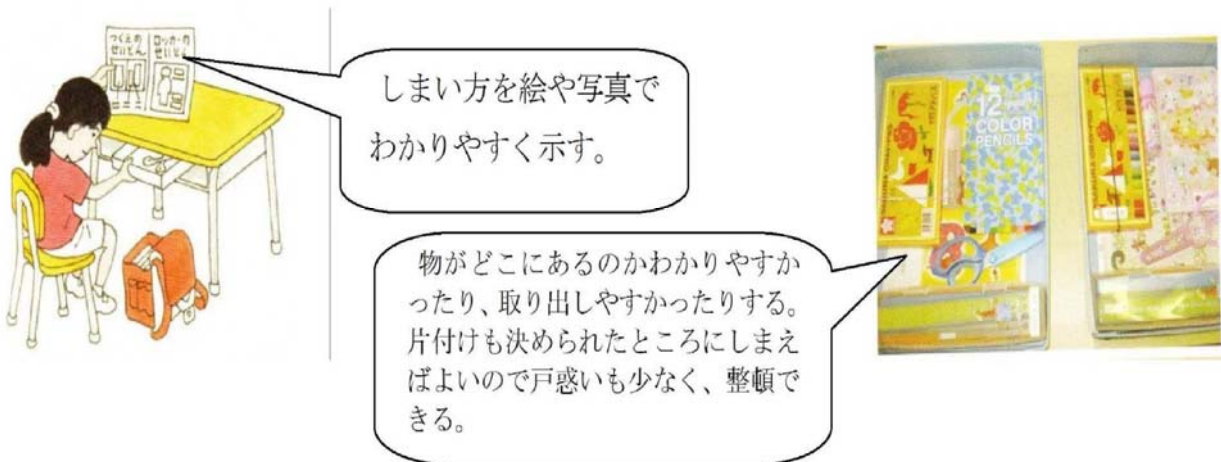
- ①教科書・ノート類の置き場所(机の中・ロッカー・ランドセル?)
- ②ランドセル(どこにとどのように?)
- ③体操服
- ④習字道具・水彩道具・ピアノカ
- ⑤辞書
- ⑥読書の本

児童の発達段階に応じて・・・

- 1) 正しい置き方を写真や絵で表示
- 2) 文字のみで表示
- 3) 口頭で置き場所を指示

2.机上(授業中)、机の中のしまい方を決める。

・・・授業中の机上に授業以外の不要なものが置かれていると、そちらに興味に向いたり、机の中の整理ができていなくて必要な物が即準備できなかつたりし、授業に集中しにくくなる。授業中の効率のよい机上の学習道具の置き方や机の中の整頓の仕方を決めることで、ルールや規則に従って、学習に集中でき、きれいに整頓することができる。



3. 1日の予定を常時確認できるようにする。

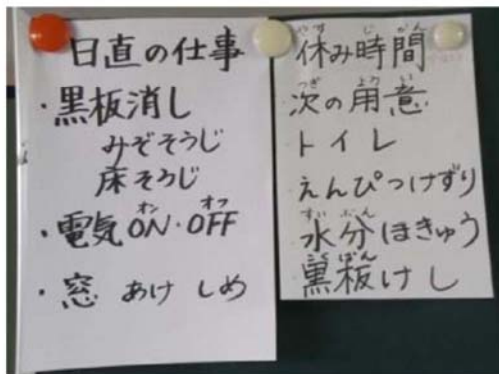
・・・先の見通しが持てず、不安を持つ子どもがいる。次の時間の行動が確認でき、安んじて行動ができるように掲示しておく。



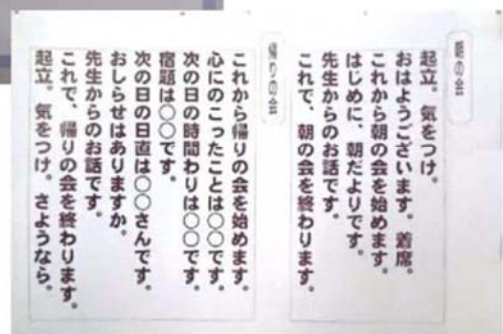
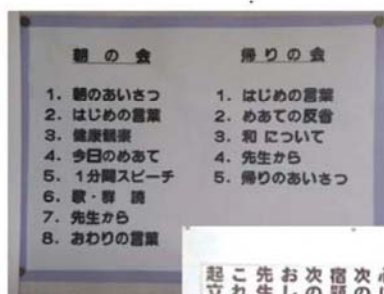
1日の流れがわかるように、教室内の決まった場所に表示しておく。

4. ルールを明確にする。

・・・口頭指示だけでなく、掲示することで見ればわかり、振り返りながら、落ち着いて取組ができる。



朝の会・帰りの会
日直の仕事
休み時間にやること
掃除の分担表 等



5. 黒板周り(教室前面)はすっきりさせる。

・・・授業中、教室前方に興味をひく物があると、注意がそこに行き、先生の指示を聞き逃したりしてしまう。子どもたちの注意をそらしたり、大切な情報をわかりにくくしたりする余分な情報を取り除き、「今大切な情報」がわかりやすい環境づくりをする。



6. 既習事項や前時の学習のあしあとは、衝立や教室入り口頭上の針金に掲示する。

・・・学習時に振り返りができる。また、掲示物の種類分けをして、スペースを区切ることで、掲示物の確認をしやすくなる。



7. 児童の作品(図画・習字等)は、教室背面に掲示する。

・・・学習時に必要のない掲示物は、余分な情報を省くため、背面に掲示する。掲示物の種類分けをして、スペースを区切ることで、掲示物の確認をしやすくなる。





学びの足跡を残す

資料6 学年会を効果的に活用した校内委員会年間計画

〇〇市立〇〇中学校

20XX年度 校内委員会年間計画

- 会の目的**
- ・特別支援教育の推進に向けて必要な取組の企画、運営を行う。
 - ・特別な支援を要する児童生徒の確認を行い、支援方法、支援の場、支援者等に関して協議、その評価を行う。

- 構成メンバー** 校長・教頭・特別支援教育学校コーディネーター・関係する学級の担任・巡回アドバイザー
- ※個別の事例に関する協議については、対象児童生徒に関わる該当児童生徒在籍学級担任、教科担任、部活動指導者、SSW、SC、支援員等も参加
 - ※校内支援会には必要に応じて保護者の参加も検討
 - ※職員会議等は、可能な限り時間講師、支援員等も含めた全教職員が参加する

学期	月	校内委員会・校内支援会	関係機関等との連携	学校COの役割	個別の指導計画 引き継ぎシート等
1学期	4月	職員会議等（生徒の情報共有を含む）月1回 ・前年度から引き継がれた生徒の情報共有 ・個別の指導計画の作成が必要な生徒の確認	・引き継ぎの実施 SCとの支援会 週1回		
	5月	校内支援会（3年部学年会） 教育支援センターとの支援会	SSWとの支援会 月1回	・教育相談の申込み （依頼があれば随時）	
	6月	校内支援会（2年部学年会）			
	7月	校内支援会（1年部学年会） ・1学期のまとめ		〇〇市特別支援教育学校コーディネーター研修会（7/3）	
2学期	8月	・個別の指導計画と引き継ぎシートに関する校内研修（8/21） ・特別支援教育に関する校内研修（8/24）			個別の指導計画の作成
	9月～11月	校内支援会（各年部学年会）			
	12月	・2学期のまとめ		・高等学校との引き継ぎの連絡調整 〇〇市特別支援教育学校コーディネーター研修会（12/4）	
3学期	1月	・公立高等学校入学者選抜に向けて生徒の情報共有	巡回相談（2年）の実施		・引き継ぎシート作成 ・公立高等学校入学者選抜の資料作成（副申書・特別措置類等）
	2月	校内支援会（3年部学年会） 引き継ぎシートについての研修		中学校区学校コーディネーター連絡会の実施（案） ・引き継ぎを要する児童・生徒に関する情報交換 ・引き継ぎの日程確認等	
	3月	校内支援会（1・2年部学年会） 次年度に向けての研修 ↓ ↓ 1年間のまとめ	・引き継ぎ会の実施 ↓	・次年度の準備 ↓	・個別の指導計画の3学期の評価及び1年間のまとめ ・個別の指導計画次年度への引き継ぎ対象者の確認 ・リストの作成

資料7 個別の指導・支援が必要な児童生徒のリスト1

〇〇市立〇〇小学校

現在

日

月

年

20XX年度 支援・配慮が必要だと思われる児童

番号	学年	学級	氏名	支援委員会より		個別指導計画	支援の必要な状況					診断判断した医療機関	服薬	その他支援に関する情報など
							QU	登校状況	学習面 標準学テ	行動面	対人関係			
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														

資料8 個別の指導・支援が必要な児童生徒のリスト2

年 組 配慮を要する児童 (20XX年、2月10日現在)

提出時期 1回目・・・7月XX日
2回目・・・2月XX日

※1学期は濃い枠内に記入します。項目が足りない場合は増やし、余る場合は項目を削除して無駄を省き編集して下さい。

※2回目のQUの位置は□で記入して下さい。記入スペースは自由に設定して下さい。

	氏名	1学期		QUの位置	その後の変化 (2学期以降記入)
		生活面	学習面	○1学期□2学期	
1	例 ○○ 小太郎 (男)	書ける範囲で具体的に記入する		<ul style="list-style-type: none"> 要支援・不満足群 侵害認知群 非承認群・満足群 	変更や次年度 参考になるこ とを記入
2				<ul style="list-style-type: none"> 要支援・不満足群 侵害認知群 非承認群・満足群 	
3		記入のしかた		<ul style="list-style-type: none"> 要支援・不満足群 侵害認知群 非承認群・満足群 	
4				<ul style="list-style-type: none"> 要支援・不満足群 侵害認知群 非承認群・満足群 	
5				<ul style="list-style-type: none"> 要支援・不満足群 侵害認知群 非承認群・満足群 	

[追加記入欄] 2学期以降で、配慮が必要と思われる児童

	氏名	生活面	学習面	QUの位置	その他
				○1学期□2学期	
	桜町 花子 (女)	2学期以降、気になる児童を追記する。		<ul style="list-style-type: none"> 要支援・不満足群 侵害認知群 非承認群・満足群 	

※保存先 ; 共有⇒24 配慮を要する児童⇒20XX 学級別配慮へ

※3月X日(水)の校内研、『配慮を要する児童について』のところで報告して下さい。

20XX年度 校内支援会 個別支援・学級支援（個別の指導計画）

記入の仕方

児童以外への支援にも活用可。

日

月 児童名等

年

学年

見とり	支援	効果・変容等	検証・評価
<p>特に気になる児童・学級の現状</p> <p>【学校の様子】 校内支援会前 ・学期初めに見取ったことを個別の指導計画に記入した後、特に気になったことを記入。また日々気になったことを記入する。</p> <p>【家庭での様子】</p>	<p>・現在行っている支援や現段階で有効であると考えられる支援を記入。</p> <p>・校内支援会の中で出てきた支援方法を追記。</p>	<p>・その状況が続くのか、変容している部分があるのか等を記入。</p> <p>・以前から行っていた支援、校内支援会でも出てきた支援の効果・変容等を追記。</p>	<p>次回の支援会までに記入。</p> <p>・支援が有効かどうか、困難な状況が改善されているかどうかを記入。</p> <p>・継続して支援が必要な事項は次のシートへ引継ぐ。</p>

校内支援会ごとにシートを増やしていく。

お子さんのことで気になっていませんか？ ～〇〇市立〇〇学校～



お子さんのことで気になっていませんか？

【学習面】

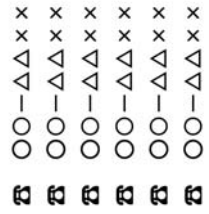
- 努力しているのに学習効果があがらない。
- 話を聞いているのに理解できていない。
- 音読がたどたどしく、読み飛ばし、勝手読みがある。
- 板書を写すのがとても遅く、正確に写せない。

【行動面】

- 授業中に手遊びをしたり、席を立ってしまう。
- 一斉指導の中では、話が聞き取りにくかったり、ボーッとしたりしている。
- 友達との関係をうまく築けない。
- 自分の気持ちや思いを表現することが難しい。
- こだわりがあり、切り替えが難しく、不安定になりやすい。

【連絡先】

- ・〇〇学校（相談事全般）
- ・〇〇市教育委員会（教育相談窓口）
- ・〇〇市保健介護課（市発達相談会）
- ・△△福祉保健所（子どもの発達相談会）
- ・△△児童相談所（相談事全般）
- ・県立〇〇特別支援学校



①まずは、学校へ相談

- ◆担任の先生に
- ◆校長、教頭、コーディネーター（註1）に
- ◆養護教諭に

②次に、専門機関に相談

- ◆スクールカウンセラー
- ◆市発達相談会（保健介護課）
- ◆子どもの発達相談会（△△福祉保健所）

③教育相談（随時申込み可）

- ◆担任の先生、または、校長、教頭、コーディネーター（註1）等、学校を通じて申込みを

いつでも気軽に
ご相談ください。

秘密は守り
ます。
安心して下
さい。

【教育相談申込みの流れ】

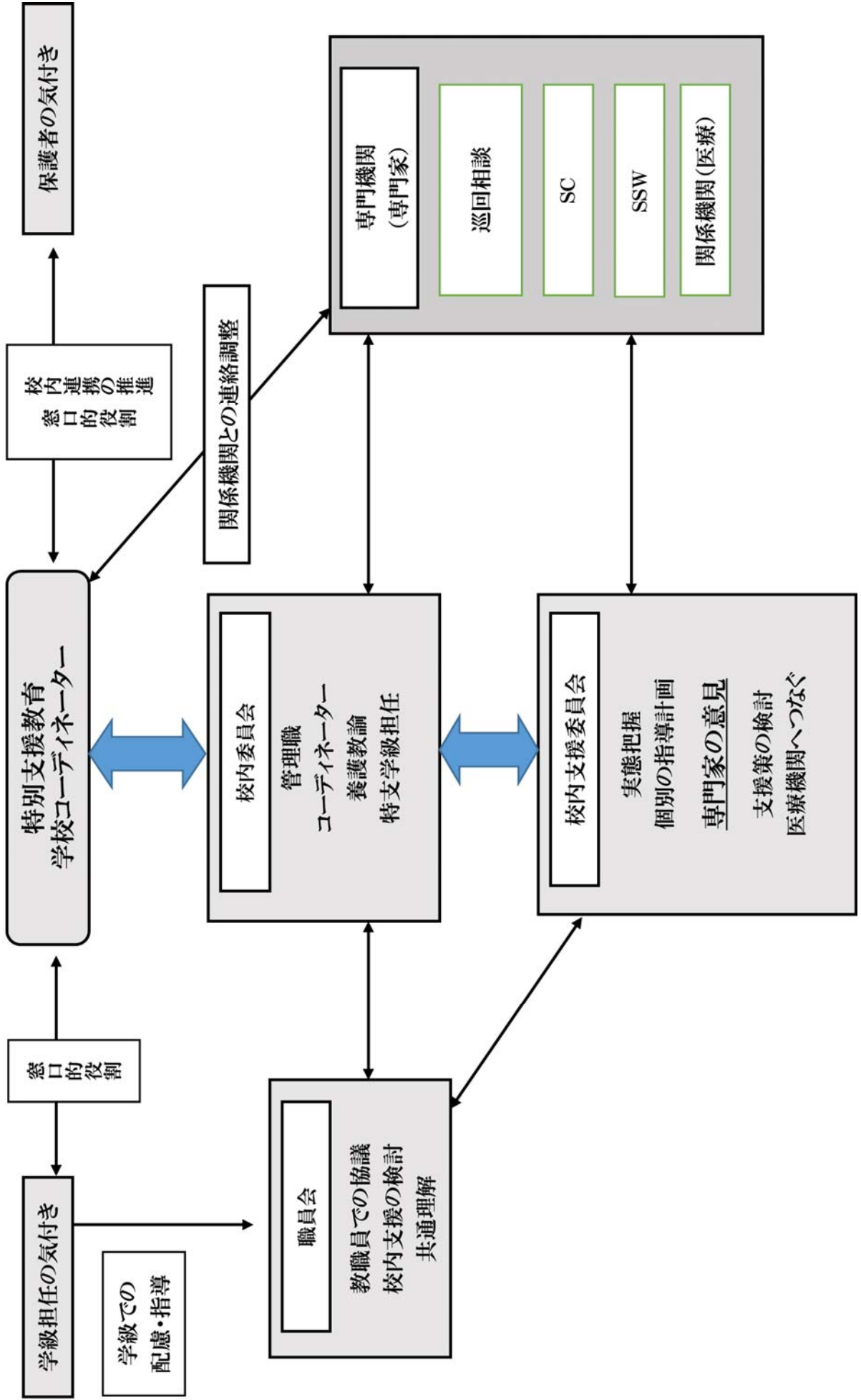
担任または学校に相談
↓
申込用紙配付（家庭で記入）
↓
担任（学校）経由で教育委員会へ

★特別支援学校や特別支援学級に進学・入級を希望する場合は、教育相談による、心理検査等が必要になります。

註1：コーディネーターとは、子どもさんの発達や行動面・学習面での相談の窓口になる教員のことです。

〇〇市立〇〇小学校

20XX 年度 特別支援教育に関する校内支援体制



お子様に合った支援を提供するために

〇〇市立〇〇小学校

■自閉症・情緒障害特別支援学級


- 情緒障害とは、情緒の現れ方が偏っていたり、その現れ方が激しかったりする状態を、自分の意志ではコントロールできないことが継続し、学校生活や社会生活に支障となる状態をいいます。
- 自閉症・情緒障害特別支援学級は、発達障害（自閉スペクトラム症）や心因性の選択性かん黙の児童を対象としています。
- 特別支援学級では、情緒障害のために、通常学級での教育では十分に成果が期待できない児童が在籍して、基本的には通常の学級と同じ教科等を学習しています。
それらに加え、自閉スペクトラム症の児童には、対人関係の形成や生活に必要なルールなどに関することを重視し、言語の理解や場に応じた適切な行動などができるようにするための指導が行われています。

■通級による指導

- 通級による指導は、LDやADHDなどにより学力や学習習慣の定着が難しい児童で、基本的には通常の学級で学習できる児童を対象としています。
- 在籍は通常の学級であり、週に2～4時間程度、個々の課題に対応した学習活動を行っています。

自閉症・情緒障害特別支援学級においては、特別支援学級が設置されていない高等学校を見据え、小学校在籍時又は中学校から、通常の学級で学習できることを目指して指導や支援を行っていきます。

■自閉症・情緒障害特別支援学級から通常の学級へ（レベル0を目指して）

レベル5	情緒の不安定さが顕著 	特別支援学級教室 対応	・環境の変化に敏感なため、1対1対応で学校での安定を図ることをめざす。
レベル4		特別支援学級教室 対応	・特別支援学級教室ですべてを過ごし、教科学習や自立活動を行う。 ・1対1対応でないと、他者に反応し落ち着きがなくなったり、暴言や暴力が出てしまったりする。
レベル3		特別支援学級教室 対応	・特別支援学級教室ですべてを過ごし、教科や自立活動を行う。 ・少人数であれば一緒に教科学習や自立活動をすることが可能。
レベル2		特別支援学級教室 交流学級教室 併用対応	・特別支援学級と交流学級を組み合わせ、教科によって教室を使い分ける。 ・交流学級でも授業を受けることが可能。すべての授業は難しい。
レベル1		交流学級教室 対応	・終日、交流学級で過ごし、教科等の授業も交流学級全体の中で受けることができる。教科や内容により個別の支援が必要。 ・通級による指導への移行も検討。
レベル0		通常学級 への 移行前	交流学級教室 対応